

オープン・イノベーション

①

実現のための仕組み化

NPO法人ミラック
代表理事 西村 勇哉

260万年前に石を道具に変えてから、人でも徐々に注目が進展類はイノベーションの連鎖によって現代の生活にたどりつきましと、オープン・イノベた。人の営みとともに進んできたイノベーションは人類にとって自然な選択です。では、自生的な存在としてイ

（にしむら・ゆうや）
大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。日本生産性本部を経て、2011年にミラックを設立。「未来起点」による大手企業の新規事業開発の支援や未来潮流の探索に取り組む。理化学研究所未来戦略室、大阪大学SSI特任准教授、関西大学総合情報学部特任准教授。

情報の基盤がある中で、新たな取り組みを起こす

けるため、どのよう仕掛けや取り組みが起こせるのでしょうか。

オープン・イノベの考え方は、2017年度版として発行された科学技術白書（文科科学省）の第1章で137ページにわたってオープン・イノベが特集され、また、2018年にはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）によるオープン・イノベ白書の外部へのライセンス提供（inside-out）や、ウの指摘は作られたク

これら二つの「提示」の2点が進展の速度と精度を高め、3ベーションの概念は（チェスプロウ版、EUI版）、意図的もしくは意図せず閉じた状況を打破するために提唱された背景を

って、一社自前主義のインベーションに對比する形で2003年に提唱され、世の中に広がりました。その後、2013年には欧州委員会が、オープン・イノベーション2.0の概念をまとめ、ダブリノ宣言でその推進が決定されました。

来の中から生まれるエコーシステム型の取り組みに焦点を当て、創発的な文脈を強めていることが特徴的です。一方で、イノベーション自体が、異なる文脈の交差や従来にない新たな要素の結合から生まれてくることか

1のコミュニケーションプロセスは、様々なワークショップ技術（wikipedia）に

ら、わざわざ「オープン」とつけることは冗長で意味のないことのようにも感じます。しかし、チェスプロウの指摘は作られたク

弱さを内包します。NPO法人ミラックでは、2008年からセクターや職種、業種を超えた創発の仕組みづくりに取り組んできたことは、異なる立場において、前提として求められる情報量は膨大な量になります。

また、まず一回転、実際に情報の基盤がある中で新たな取り組みを起こしていく経験を得ることが、二回転以降の日々の自発的な情報収集につながることを重視した結果生まれました。

た、2018年にはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）によるオープン・イノベ白書の外部へのライセンス提供（inside-out）や、ウの指摘は作られたク

意図的に壁を取り払ったコミュニケーションプロセス、211知

50年ごろにグーテンベルクによって作られた印刷機による圧

た、2018年にはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）によるオープン・イノベ白書の外部へのライセンス提供（inside-out）や、ウの指摘は作られたク

意図的に壁を取り払ったコミュニケーションプロセス、211知

50年ごろにグーテンベルクによって作られた印刷機による圧

た、2018年にはNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）によるオープン・イノベ白書の外部へのライセンス提供（inside-out）や、ウの指摘は作られたク

意図的に壁を取り払ったコミュニケーションプロセス、211知

50年ごろにグーテンベルクによって作られた印刷機による圧